

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名:村上 周

所属:新居浜市立船木中学校

記録日: 2022年2月7日

キーワード:表現力やコミュニケーション能力の向上

【対象生徒の情報】

・学年

中学3年生女子

・障害名

知的障がい

・障害と困難の内容

語彙が少なく、思うことはあるがその気持ちを表現することが難しい。「伝えたくても伝えられない」という場面が多々見受けられる。

・使用した機器に

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

1 コミュニケーション能力の向上

自分の思いや考えを順序立ててまとめるために、ロイロノート等を活用する。

(1) コミュニケーションのきっかけとして、学級で飼育している亀の様子や学校での活動、日記などを用いて、学級担任とやり取りを行う。

(2) 「ロイロノート」などを用いて、感想や自分の考えなどをまとめ、発表などに活用する。

(3) 校区の地図や自宅近辺の地図を作成し、道案内や紹介を行う。

→ コロナ禍で校外学習が現実的ではない。また、タブレット端末の持ち帰りを行っていないため自宅近辺の写真を撮ることができない。そこで、自分が行きたい高校や特別支援学校までの道のりやバスの時刻表などをタブレットで調べ、その後自分で行ってみたいという活動を保護者の方の了承を得られたら行う予定である。

(4) 上記の活動を行う際は、「ロイロノート」の写真や動画の機能を活用する。

2 特別支援学級での特別な教科活動を設定して、対象生徒の成長へとつなげる。

(1) 道徳などで動画教材を活用する。

(2) 学習系のアプリやドリルを活用する。

3 ICT 機器を活用するためのスキルの習得

(1) 上記のロイロノートを活用する際に、キーボード入力が必要が出てくる。将来的にパソコンを使うことも十分考えられる。また、普段の生活でローマ字を読めるようになるためや、特別支援学校の入試でローマ字の問題が出てくることもあり、ローマ字の学習も兼ねてキーボード入力の練習を行う。

・実施期間

2021年4月から2022年1月

・実施者

村上 周

・実施者と対象児の関係

【活動内容と対象児の変化】

・対象生徒の事前の状況

○ 学習面

学習したことが定着しにくい。授業は当該学年の学習を行っているものの、高校受験に向けて基礎・基本の学習が中心である。促音や拗音、長音、外来語(カタカナの言葉)の聞き取り、読み書きに苦手意識がある(行った→行た、ボール→ポオルなど)。語彙が少なく、作文や感想などの作成や発表は難しい。

○ コミュニケーション面

人とかかわることが好きで、学級担任や仲の良い友達など慣れた人とは積極的にコミュニケーションをとろうとするが、距離感が近くなりすぎることがある。また、感想等を発表するとき、「あれ」や「あの」という抽象的な言葉しか出てこない姿や、言い間違い等する姿より、思うことはあるがその気持ちを表現することが難しいと考えられる。自分の好きなことや得意なことを話すことが好きであり、学級担任にもよく話をしてくれる。しかし、言葉や説明が足りないことが多く、うまく伝えられないことが多い。交流学級では友達から話し掛けられると話をするが、自分から発信することはほとんどない。相手にしてほしい時やふとした時に言動が幼くなる時がある。しかし、幼い言動は交流学級においてはほぼ見られない。

○ 課題や困っていること

このような対象生徒の事前の状況から、「間違っ覚えて言葉で伝える」「語彙が少ない」「伝えたいことが整理できなかったり言葉が足りなかったりする」「文章を順序だてて組み立てられない」などが原因で「伝えたいことが伝えられない」「伝えることをあきらめる」「自分から発信することができない」ということが課題として挙げられる。

○ ロイロノートについて

「ロイロノートでどんなことができるだろうか?」と生徒と話しながら遊び感覚で一緒にタブレット端末を触っていた。写真や動画に文字を書き込むことができ、いろいろな使い方が分かってきた。

・ 活動の具体的内容

1 コミュニケーション能力の向上について



○ 道徳で「ロイロノート」を用いて、感想や自分の考えなどをまとめる。

1 学期最後の道徳で行った。キーボードを打つのに時間がかかり、打つことに集中しすぎて、キーボードを打っている間に考えていることを忘れてしまうこともあり、本人は少しイライラしている様子が見受けられた。感想までタブレット端末でまとめる予定であったが、感想は手書きとなった。そのため、当初の目的であった「感想や自分の考えなどをまとめ、発表などに活用する」ということができなかった。

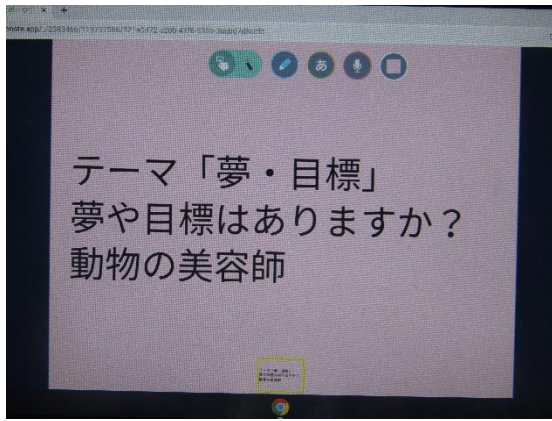


写真1

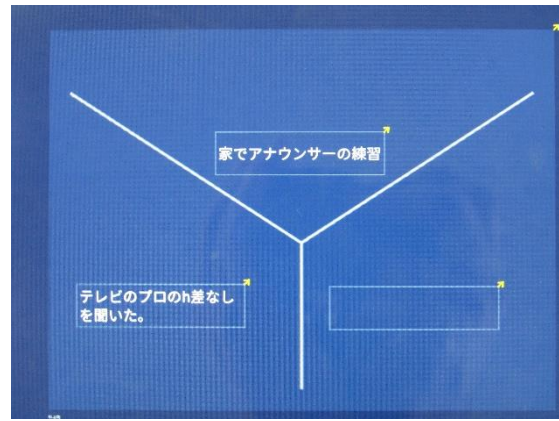


写真2

写真1を打ち込むのに10分以上、「キル君が自分の夢を叶えるためにやっていることを三つ挙げてみよう。」という質問に対して、シンキングツールを用いて写真2を打ち込むのに10分以上かかった。打ち間違いも見受けられる。

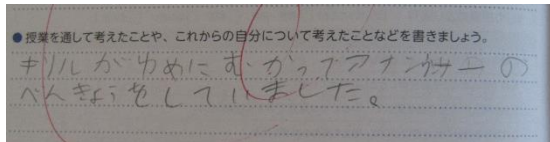


写真3

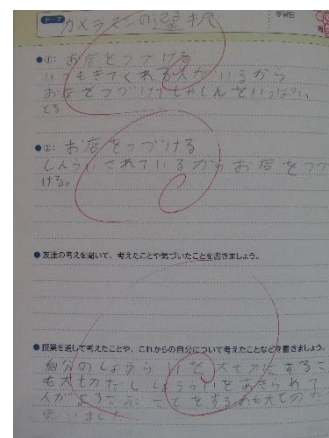


写真4

動画の視聴時間15分程度を合わせると、本時の道徳の時間では感想を書く時間を5分程度しか確保できなかった。結果、写真3のようにほとんど感想を書くことができなかった。普段の道徳の時間では、感想を書く時間を10分以上確保でき、写真4のように自分の考えも含め、しっかりと書くことができています。

打ち込むことに対して、イライラを感じているようであったので、他の入力方法も用いた。

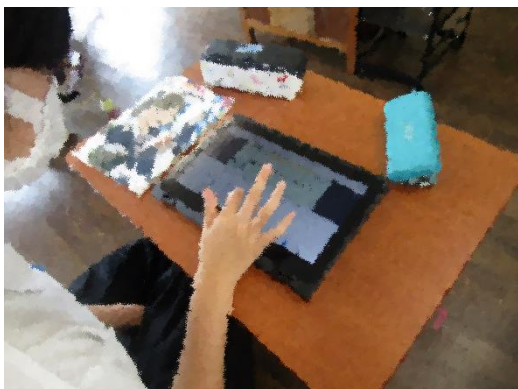


写真5

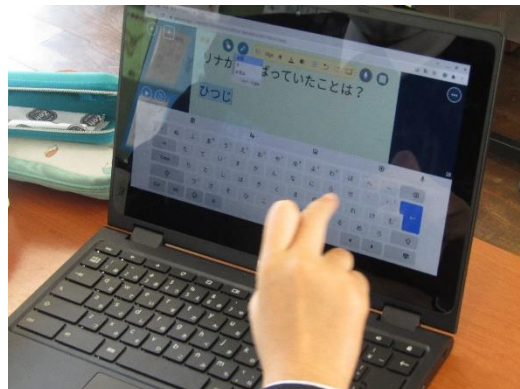


写真6

用いた入力方法は、手書き入力(写真5)とひらがな入力(写真6)である。本人はひらがな入力の方がストレスが少ないようであった。しかし、タブレット端末を用いて、自分の考えをまとめることに対して、かなりの苦手意識があったようで、「ノートに書きたい。」という申し出があり、2学期中旬以降はノートに考えや感想をまとめていった。ただ、「ノートに書きたい。」と自分から発信できたことは、よかったと思う。

○ タブレットのカメラ機能を用いた活動

- ・ 写真で一言、写真で一句、写真で4コマ

タブレット端末で撮影した写真を用いる活動を行った。友達と一緒に校内を回り、いろいろな想像を巡らせながら、楽しそうに活動に取り組んでいた(写真7)。また、活動は『写真で一言→写真で一句→写真で4コマ』と段階的に行っていた(写真8、9、10)。



写真7



写真8(一言)

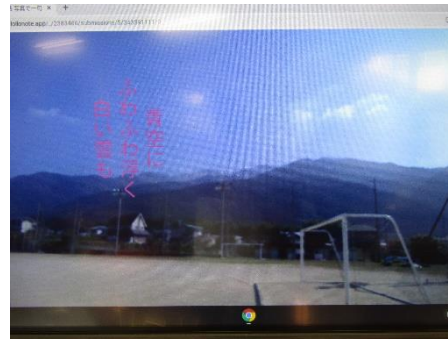
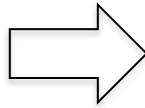


写真9(一句)

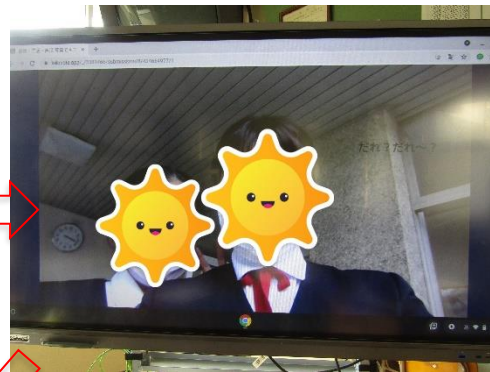
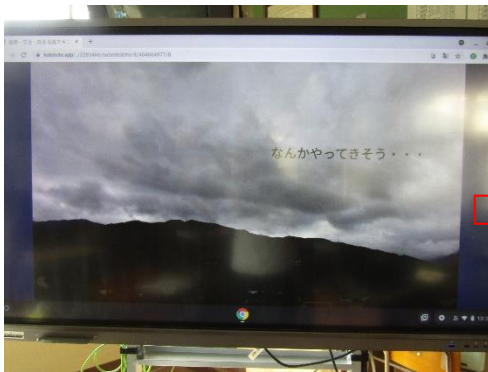


写真10(4コマ)

教師からのアドバイスは、「好きな写真を撮っておいで。」「俳句や川柳は五・七・五だよ。」という単純なものに留め

た。一句に関しては、1年時より人権標語や非行防止標語の制作などで五・七のリズムに触れる機会が多かったこともあり、言葉さえ選ぶことができればスムーズに進めることができた。4コマに関しては、並べる順番やストーリーに少し苦勞していたが、友達との会話の中で、アドバイスをもらったりアイデアをひらめいたりさせながら完成させていった。一言や一句では感じたことをどう表現しようか、4コマではストーリーを考えることで、そして、笑顔で自分の作品を発表する姿から、表現することの楽しさなどを感じることができたように思う。また、制作していく中で友達と相談したり、友達の作品を見たりすることで、刺激を受けたり楽しさを感じたりしているようであった。

・ 写真日記

本校では、タブレット端末を家庭に持ち帰る機会が一度あった。その際に宿題として、「写真日記を送ろう」という課題を設定した。対象生徒は自分の好きなことについては発信したい思いが強く、写真日記を使うことで本人から発信する機会を増やそうと考えた。また、好きなことについて書くことで自然と文章量や情報量が増え、周りからの賞賛を得やすいのではないかと考えた。対象生徒は、自宅で飼っているうさぎの写真を撮影し、その様子や世話についての日記を提出した(写真 11)。一部打ち間違いや句読点が無く読みにくい部分はあるものの、うさぎの様子や自分の気持ちを書くことができていた。

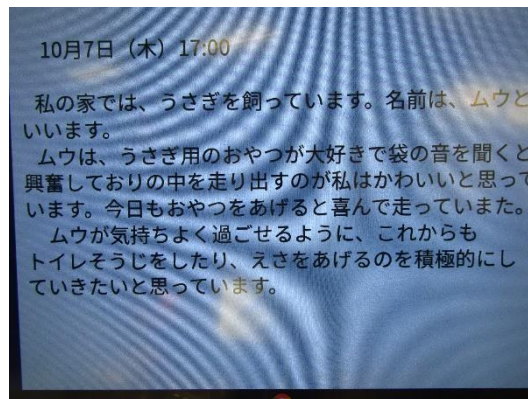


写真 11

ロイノートは市や全校での活用が進められている。より表現が豊かになるよう、写真を用いて、手軽に気軽にロイノートを使うことができる活用方法を考えてきた。本人も日記や感想において、一連の流れに沿って書けるようになってきている。活動の中で写真を使うと表現しやすいことが分かってきた。少しずつではあるが、自分の思いを伝えることができるようになり伝えようとする姿が見られたりするようになってきた。

2 特別支援学級での特別な教科活動の設定

○ 道徳での動画教材の活用

昨年度より、動画教材を用いて道徳の学習を行っている。その理由として、教科書の文章を「理解して読んでいる」というより、「ただ文字を追っている」と感じたからである。今年度も昨年度と同様、NHK for school の道徳番組で学習をしていたが、1学期の後半より「カラフル」という番組を中心に学習を行っている。この番組は世界中の同世代から少し下の世代の子どもが頑張っている姿を中心に構成されている。文字の中の世界より、実際に世界中の小中学生が頑張っている姿や悩んでいる姿を見ることで、興味を持って学習に取り組むことができていく。発表や感想では、素直に共感や驚きの感情を表している。

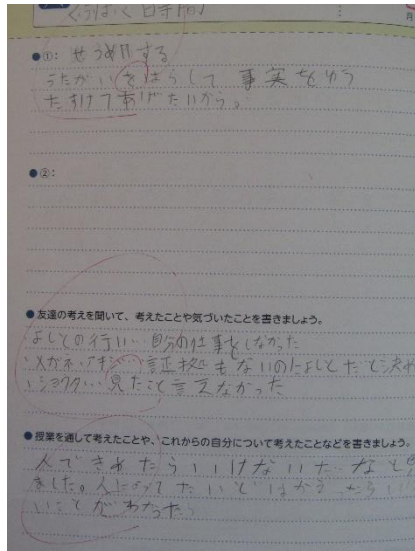


写真 12

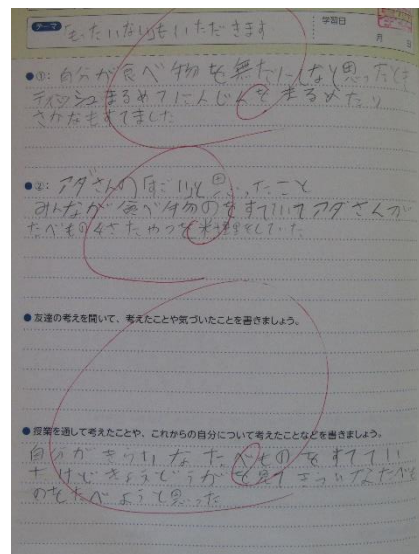


写真 13

写真 12 は NHK for school の道徳番組で学習をしていたときの感想等である。流れに沿って考えたことを書き、最後に感想を書くことができている。一昨年度、昨年度に比べ、よく書けるようになった。写真 13 は「カラフル」で学習した時の感想である。これまでと比べて、自分の事としてとらえたり、共感の言葉を書いたりできるようになっている。

○ 学習系のアプリやドリルを活用

タブレットドリルを用いて学習を行った。一問一答形式の問題が多く、対象生徒にとっては取り組みやすいようである(写真 14)。しかし、多くの時間を費やすことはできていない。

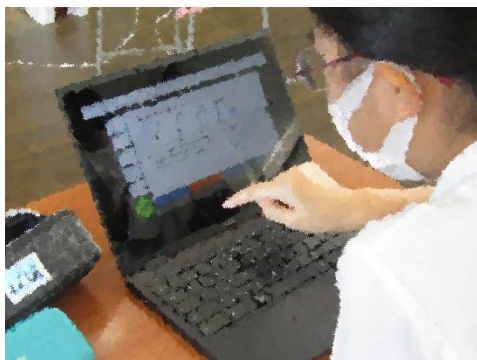


写真 14

○ その他

進学を希望する高校までの道のりやバスの時刻表などを、タブレット端末で調べる学習を行った(写真 15)。体験入学で訪ねていることもあるため、調べることで自分の乗降するバス停は容易にイメージすることができた。また、時刻表を調べることでバスに乗る時間だけでなく、そこから逆算して朝起きる時間などもイメージすることができた。

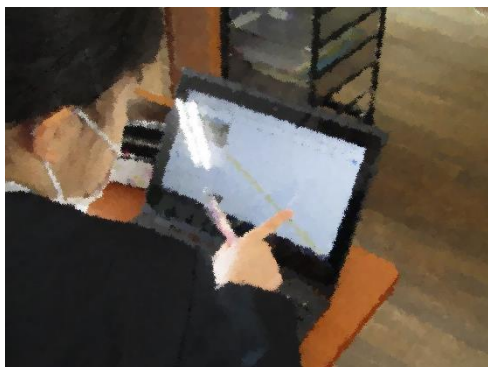


写真 15

他に、高校受験の面接練習時には、自分の面接の様子を動画で撮影し、確認する活動を行った(写真 16、17)。客観的に自分の所作や話すスピードなどを確認することができ、練習をするたびに受け答えが上手にできるようになっていった。



写真 16



写真 17

3 ICT 機器を活用するためのスキルの習得

○ ローマ字の学習も兼ねて行ったキーボード入力の練習

タイピングスキルが向上することで、①タイピングのいら立ちが軽減される。②自筆よりも正確に伝わる。③消しゴムで消すより修正がしやすい。という3点のメリットがあると考え。キーボード入力に気をとられてしまうことを少しでも減らすために、タイピング練習を進めた。

7月中旬に初めてタイピング練習を行った。「Google ドキュメント」に平仮名 50 音をローマ字で打ち込んでいった。対象生徒にとって大変苦手な作業であり、50 音打ち込むのに 30 分以上かかった。かなり苦勞をしている姿が見られた。

また、2学期より全校で「ベネッセ マナビジョン×P 検」を活用したタイピング練習が始まった。通常学級では週1回の練習となっているが、特別支援学級ではなるべく継続してタイピング練習を行いたいと考え、週3回程度の練習を行い、その都度記録をとっていった。制限時間を設定し、ゲーム感覚で行うことができ、集中して練習を行っている(写真 18)。

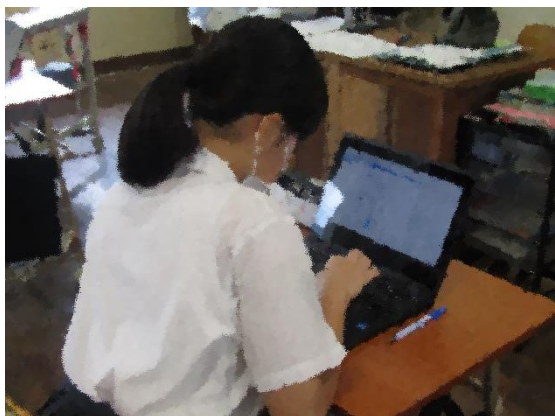


写真 18

「ベネッセ マナビジョン×P 検」を使用することにより、タイピングへの苦手意識は少し軽減されているようである。しかし、ローマ字の定着までは至っておらず、他の活動の入力時にはローマ字表を手元に置く必要があったり、他の入力方法を用いたりする必要があった。

これらの活動は、「わたしだけやっているのはどうしてだろう?」「ぼくもやりたい!」といったことにならないように、対象生徒のみだけでなく特別支援学級の生徒全員で行った。ただし、このプロジェクトの第 1 の目的は、「感想や自分の考えなどをまとめ、発表などに活用する」ことである。そのため、タイピング練習時以外は、手書き入力を用いたり、手元にローマ字表を置いたりするなど、タイピングに気をとられることを少なくするように配慮した。

・対象生徒の事後の変化

1 コミュニケーション能力の向上について

ICTを活用する・しないに関わらず、コミュニケーションの指導に関しては日頃から行っている。日記については当初は思ったことを書くだけで短文が多かった(写真19)。しかし、活動を継続して行っていくにつれ、日記の文面に「いつ・どこで・誰と・何をした。～でした。」と一連の流れと感想を書けるようになってきた(写真20、21)。また、普段の会話や学習活動を見ていく中でも、順序立てて話したり必要な情報を選んで話したりできるようになってきた。

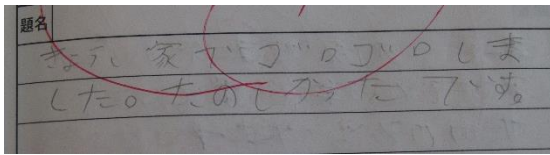


写真 19

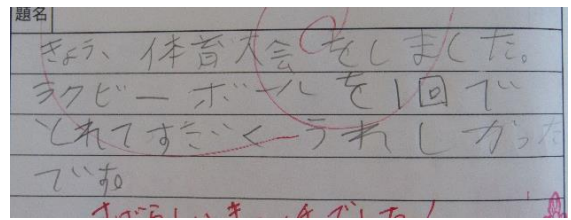


写真 20

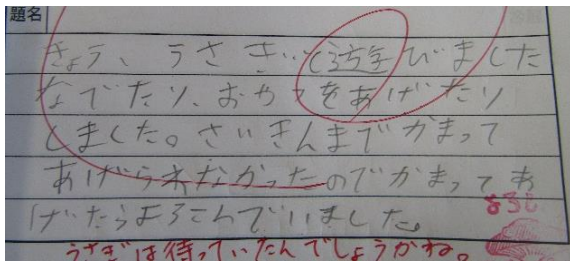


写真 21

2 特別支援学級での特別な教科活動の設定

対象生徒が2年生の頃より動画教材を用いて道徳の学習を行っている。動画教材を用いるようになって、興味を持って前向きに学習に取り組むようになってきている。さらに、「カラフル」という番組を中心に学習を行うようになってからは、真剣に考える姿が増え、共感的な言葉がよく出てくるようになった。また、道徳の時間の前に「今日は何するん?」と聞いてきたり、一生懸命に自分の意見を考えたり、感想を書いたりする姿がずいぶん増えてきた(写真22)。

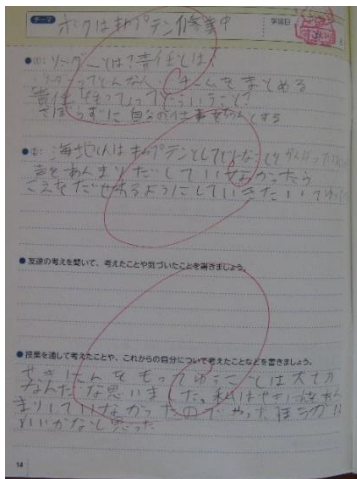


写真 22

3 ICT 機器を活用するためのスキルの習得

「ベネッセ マナビジョン×P 検」では次に打つキーを画面に色付きで示してくれているので、一から文章や文字を打ち込むより、はるかにスムーズに打つことができている。こういった体験より、タイピングに対する苦手意識はほんの少しではあるが軽減されているようである。また、タイピング練習を行った際、記録をしていった。始めてから2か月ほどの10月くらいまでは記録が伸びていくことで、うれしそうな表情を見せていた。しかし、11月以降は記録が伸びなくなったこともあり、再び苦手意識が強くなっていったようである。ミスが全くなかった日に正タイプ率100%であったことをほめると、その日以降はゆっくりでも、確実にタイピングしていくようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

- ・主観的気づき

対象生徒はこれまで、自分の考えや思いを相手に十分に伝えることができない場面が多かった。しかし、ICT 機器を用いた活動を通して、自分の思いや考えを相手に伝える手段を少しずつではあるが身に付けることができた。また、何とかして相手に伝えようとする姿も増えてきており、一定の効果があつたと思う。

興味を引くうえで、「タブレット端末を使う」ということには大きな役割があると感じた。また、写真や動画を簡単に使うことができる、編集（書く、消す、色を変えるなど）を簡単にを行うことができるといったことは、活動を行う際の効率化につながっているように思う。さらに、写真や動画を撮影することで、自分を客観的に見られることやその写真や動画をすぐに確認できることのメリットは、面接練習の際に感じた。

タイピングスキルの向上とそれに伴うローマ字の定着がうまくいかなかった。「ICT 機器を使う」という点においては、コミュニケーションの手段として重要な能力になってくると思う。対象生徒にとって、ICT 機器を使う際のタイピングスキルの必要性の指導が不足していたことが理由になっていると思う。

ICT 機器を使うことで、できる活動が増えたように思う。また、苦手なことも ICT 機器を通してなら行うことができ、成功体験が増えたように思う。ICT 機器を使わなければ、写真や動画を使った記録するという活動に手間がかかる、活動の幅が狭くなったりうまくいかなかったりする、結果として成功体験などを経験させることができなかつた可能性があるように思う。

・ エビデンス（具体的数値など）

コミュニケーション能力の向上という点で、今回の活動の中では、文字を用いて自分の思いを相手に伝える能力につながるタイピングスキルの向上について記録から考察を行った。

表1はタイピングの記録を項目ごとに各月平均でまとめたものである。最初の記録と比べるとすべての項目で大きく記録が伸びている。しかし、得点は10～12点前後、入力文字数は80字前後から伸びにくくなっている。これは、「ローマ字やキーの位置を覚えている」わけではなく、「画面に映し出される文字を指示に従って打っていく」という作業になってしまっているためと思われる。しかし、正タイプ率に注目していくと最終的には100%という数字になっており、丁寧に確実にタイピングすることができるようになってきていることがわかる。こういったことから、タイピング練習の在り方や実施の仕方についてはこれから改善を図ることが必要と思われる。

表1 タイピング記録（マナビジョンP検）各月平均

月	最初の記録	9	10	11	12	1
入力方式/時間	ローマ字/5分	ローマ字/5分	ローマ字/5分	ローマ字/5分	ローマ字/5分	ローマ字/5分
得点	3点	9.6点	11.5点	10点	10点	8.5点
入力文字数	26	75.2	84.9	78.4	78	68
正タイプ数	44	128.6	141.2	133.2	130.5	112.75
誤タイプ数	29	2.8	0.4	0.4	0.25	0
正タイプ率(%)	60.3	97.4	99.8	99.6	99.8	100
誤タイプ率(%)	39.7	2.6	0.2	0.4	0.2	0

※ P検タイピングカテゴリー合格基準（5分）

50点以上…準2級合格相当、40～49点…3級合格相当、30～39点…4級合格相当

・ その他エピソード

本校の特別支援学級では、ちぎり絵や卒業に向けてのメッセージカードなどの制作活動も多く行った。その際にインターネットの検索機能を用いて、作り方や参考となるデザインなどを探し、手本にした。その際、教師からは、なるべく指示は出さずに自分たちだけで決めるように指導した。